

コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

Windows Server 2012 R2



概要

本ガイドは、マイクロソフト コマーシャル ライセンスをご利用のお客様に、マイクロソフト コマーシャル ライセンス プログラムによる Windows Server 2012 R2 のライセンス入手方法を説明するものです。

本ガイドは情報提供のみを目的としており、Windows Server 2012 R2 ライセンスを規定するあらゆるドキュメントに優先されるものでも、それらを置き換えるものでもありません。個別の製品のライセンス条項は、小売版製品のソフトウェア ライセンス条項、製品を入手した際に利用されたマイクロソフト コマーシャル ライセンス契約、または、マイクロソフト コマーシャル ライセンス製品条項によって規定されます。

Windows Server 2016 の情報、コア単位のライセンス モデルへの変更を含む詳細情報、マイクロソフト コマーシャル ライセンスの Web サイト (<https://www.microsoft.com/ja-jp/Licensing/product-licensing/windows-server-2012-r2.aspx>) をご参照ください。

また、[Windows Server 2016 ライセンス ガイド](#)もダウンロードしていただけます。

目次

製品の概要	2
エディションの概要	2
ライセンスの概要	3
クライアント アクセス ライセンス (CAL)	3
Datacenter エディションと Standard エディションのライセンス数を決定する	3
Windows Server 2012 R2 の計画	4
エディションの比較	4
ソフトウェア アシュアランス特典	6
障害復旧の権利	6
「新バージョンへのアップグレード権」特典に基づくバージョンの移行	7
OEM ライセンスをソフトウェア アシュアランスの対象にする場合	7
コマーシャル ライセンス プログラムにおける提供状況	8
ボリューム ライセンス認証	8
ライセンスについてよく寄せられる質問 (FAQ)	9
詳細情報	16

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

製品の概要

Windows Server 2012 R2 には、エンタープライズ クラスのサーバーとクラウド プラットフォームをグローバルなクラウド サービスによって提供してきたマイクロソフトの経験が集約されています。Windows Server 2012 R2 を活用することによって、最も重要なワークロードに合わせてパフォーマンスを最適化し、強力な復旧オプションによってサービスを停止から保護できます。また、包括的な自動化機能や業界標準のハードウェアをベースとした記憶域とネットワークの仮想化ソリューションによって複雑性とコストを削減したり、アプリケーションを開発、実行、拡張して、これらのアプリケーションを貴社データセンターとクラウド間で自由に移動させることができます。ユーザーには、場所やデバイスに制限されることのない柔軟なリモート アクセスを、企業情報を保護しながら提供することができます。

エディションの概要

Windows Server 2012 R2 製品の各エディションは合理的かつシンプルに分類されているため、組織のニーズを最も満たすエディションをスムーズに選択することができます。

- ▶ **Datacenter エディション:** 高度に仮想化されたプライベート クラウド環境向け。
- ▶ **Standard エディション:** 仮想化されていない環境または軽度仮想化された環境向け。
- ▶ **Essentials エディション:** 最大 2 基のプロセッサを搭載したサーバー上で運用される、25 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。
- ▶ **Foundation エディション:** プロセッサ 1 基を搭載したサーバー上で運用される、15 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。

エディション	仮想化の権利	ライセンス モデル	価格*
Datacenter	仮想 OSE (無制限)	プロセッサ + CAL**	\$6,155
Standard	仮想 OSE × 2	プロセッサ + CAL**	\$882
Essentials	OSE × 1***	サーバー、最大 2 プロセッサ 最大 25 ユーザー	\$501
Foundation	仮想化の権利なし	サーバー、最大 1 プロセッサ 最大 15 ユーザー	OEM のみ

OSE: オペレーティング システム環境

*2 プロセッサの場合の Open No Level (NL) の推定小売価格 (具体的な価格についてはマイクロソフトのリセラーにお問い合わせください。リセラー経由で購入する場合、マイクロソフトはライセンスの価格や支払い条件を決定できません)。

** サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとにクライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。詳細については製品条項をご確認ください。

***Windows Server Essentials エディションでは、Windows Server Essentials ソフトウェアを実行する OSE が 1 つのみ許可されます。

ライセンスの概要

Windows Server 2012 R2 の各エディションのパッケージおよびライセンス体系は変更されていません。

Datacenter エディションと Standard エディションの違いは次のとおりです。

- ▶ **違いは仮想化の権利のみ** – Standard エディションでは 2 つの仮想インスタンスを実行でき、Datacenter エディションでは仮想インスタンスを無制限に実行できます。
- ▶ **プロセッサ ベースの一貫したライセンス モデル** – 最大 2 基の物理プロセッサを搭載したサーバー 1 台がカバーされます。

Essentials エディションと Foundation エディションの違いは次のとおりです。

- ▶ **サーバー ベースのライセンス モデル** – Foundation は 1 基のプロセッサを搭載したサーバー向けで、Essentials は 1 基または 2 基のプロセッサを搭載したサーバー向けです。
- ▶ **アクセスに CAL は不要** – Foundation エディションには 15 ユーザー アカウント、Essentials エディションには 25 ユーザー アカウントが付属しています。

クライアント アクセス ライセンス (CAL)

これまでと同様、Windows Server の Standard エディションと Datacenter エディションでは、サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとに Windows Server CAL が必要です (例外については[製品条項](#)を、間接的なアクセスのライセンスに関する情報についてはライセンス簡易ガイドの『[マルチプレキシング \(多重化\) – クライアント アクセス ライセンス \(CAL\) の要件](#)』をお読みください)。

一部の追加機能または高度な機能では、これまでと同様に、追加の CAL を購入する必要があります。たとえば、リモート デスクトップ サービスや Active Directory Rights Management サービスなどの機能を利用する際は、Windows Server CAL に加えて追加の CAL が必要となります (追加の CAL の詳細については、『[ベースおよび追加クライアント アクセス ライセンス \(CAL\)](#)』簡易ガイドをお読みください)。

注: Windows Server 2012 CAL は、Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 へのアクセスに使用されます。

Datacenter エディションと Standard エディションのライセンス数を決定する

ライセンスの例	Datacenter ライセンスの必要数	Standard ライセンスの必要数
仮想化されていない 1 プロセッサ サーバー × 1	1	1
仮想化されていない 4 プロセッサ サーバー × 1	2	2
3 つの仮想 OSE が稼働する 2 プロセッサ サーバー × 1	1	2
12 の仮想 OSE が稼働する 2 プロセッサ サーバー × 1	1	6

Windows Server 2012 R2 の計画

Windows Server 2012 R2 の導入を計画している場合は、次の点にご注意ください。

Windows Server 2012 R2 のエディションは、仮想化のニーズと各エディションの機能に基づいて選択してください。

- ▶ Datacenter エディション：高度に仮想化されたプライベート クラウド向け。
- ▶ Standard エディション：軽度仮想化された環境または仮想化されていない環境向け。
- ▶ Essentials エディション：最大 2 基のプロセッサを搭載したサーバー上で運用される、25 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。
- ▶ Foundation エディション：15 ユーザー以下の小規模ビジネス向け。プロセッサ 1 基を搭載したサーバーを OEM から購入する場合に選択可能。

既存の投資を保護しながら最新バージョンのツールを利用し、さらに技術サポートと導入計画サービスを活用するには、ソフトウェア アシュアランスを更新することが最もお勧めの方法です。

これまでどおり、マイクロソフト コア インフラストラクチャ スイート (CIS) は、プライベート クラウドおよびデータセンター管理の価格面で最大のメリットを提供します。

Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディション上で実行されるワークロードにアクセスするための Windows Server CAL を購入する場合、これまでどおり、Core CAL スイートと Enterprise CAL スイートを選択することで最大のコスト効果が発揮されます。

マイクロソフトでは、必要な IT 環境を予算内で実現していただくための柔軟な支払方法をご用意しています。詳しくは、www.microsoft.com/ja-jp/Licensing/how-to-buy/financing をご覧ください。より詳しい情報については、マイクロソフト ソリューション パートナー ([電子メール](#)、電話: 0120-921-851) に直接お問い合わせください。

エディションの比較

実行インスタンス数によるエディションの比較

実行インスタンスは、物理オペレーティング システム環境 (POSE) と仮想オペレーティング システム環境 (VOSE) のどちらにも配置させることができます。

エディション	POSE の実行インスタンス数	VOSE の実行インスタンス数
Datacenter	1	無制限
Standard	1 ¹	2
Essentials	1 ¹	1 ²
Foundation	1	0

¹ 許容上限数の仮想インスタンスを実行する場合、物理インスタンスは、仮想インスタンスの管理と仮想インスタンスへのサービス提供にのみ使用できます。仮想環境のライセンスの詳細については、『[仮想環境で使用する Microsoft サーバー製品のライセンス](#)』簡易ガイドをお読みください。

² Essentials は、VOSE で実行できる唯一のエディションです。

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

サーバーの役割によるエディションの比較

サーバーの役割	Datacenter Standard	Essentials	Foundation
AD 証明書サービス	●	■ ¹	○ ¹
AD ドメイン サービス	●	■ ³	● ³
AD フェデレーション サービス	●	●	●
AD ライトウェイト ディレクトリ サービス	●	●	●
AD RMS ⁴	●	●	●
アプリケーション サーバー	●	●	●
DHCP サーバー	●	●	●
DNS サーバー	●	■	●
FAX サーバー	●	●	●
ファイル サービス	●	■ ⁵	○ ⁵
Hyper-V	●	●	○
ネットワーク ポリシーとアクセス サービス	●	■	○
印刷とドキュメント サービス	●	●	●
リモート アクセス	●	■ ⁶	○ ⁶
リモート デスクトップ サービス	●	■ ⁸	○ ⁹
UDDI サービス	●	●	●
Web サーバー (IIS)	●	■	●
Windows 展開サービス	●	●	●
Windows Server Essentials エクスペリエンス	●	■	○
Windows Server Update Services (WSUS)	●	●	○

- 完全
- 一部/制限
- 自動インストール/構成
- 利用不可

AD = Active Directory

RMS = Rights Management サービス

DNS = ドメイン ネーム システム

¹証明機関の作成に制限されます。その他の Active Directory 証明書サービス機能 (ネットワーク デバイス登録サービス、オンライン レスポンダー サービス) はありません。詳細については、ADCS の役割に関する TechNet ドキュメントを参照してください。

²ADDS フォレストおよびドメインのルートにして、FSMO のすべての役割を設定する必要があります。

³ADDS の役割をインストールする場合、フォレストおよびドメインのルートにして、FSMO のすべての役割を設定する必要があります。

⁴アクセスには追加の AD RMS CAL が必要です。

⁵データ重複除去機能は利用できません。

⁶RRAS 接続が 50 件、IAS 接続が 10 件に制限されます。DirectAccess および VPN がサポートされます。

⁷Essentials エディションのリモート Web アクセス機能を使用する場合を除き、アクセスには追加の RDS CAL が必要です。

⁸RD ゲートウェイ役割サービスだけがインストールおよび構成されます。RD セッション ホストを始めとするその他の RDS 役割サービスはサポートされません。

⁹リモート デスクトップ サービス接続は 50 件に制限されます。

ソフトウェア アシュアランス特典

有効なソフトウェア アシュアランスをお持ちのマイクロソフト コマーシャル ライセンスのお客様は、マイクロソフト 製品を効率的にご利用いただくことを目的に提供されるテクノロジー、サービス、ライセンスの権利を使って、マイクロソフトのソフトウェアとサービスを最大限に活用することができます。

以下は、Windows Server のソフトウェア アシュアランスが提供する特典の一部です。

- ▶ **新バージョンへのアップグレード権:** 有効なソフトウェア アシュアランスを持つ製品の最新バージョンが提供された場合に、製品を最新バージョンにアップグレードできます。
- ▶ **計画サービス:** マイクロソフト認定パートナーまたは Microsoft Services によるきめ細かな計画アシスタント サービスを受けながら、マイクロソフト ソリューションの展開計画を体系的に検討、作成できます。たとえば、プライベート クラウド、管理、仮想化導入計画サービス (PVDPS) では、データセンターの最適化に必要な根本分析、ビジネス ケース、プロセス、技術手法が提供されます。
- ▶ **ステップアップ ライセンス:** 有効なソフトウェア アシュアランスをお持ちのお客様は、特定の製品の低位エディションから上位エディションに低コストで移行できます (例: Windows Server 2012 R2 Standard から Windows Server 2012 R2 Datacenter)。なおステップアップ ライセンスは Open License プログラムまたは Microsoft Products and Services Agreement (MPSA) プログラムではご利用いただけません。
- ▶ **24 時間年中無休の技術サポート:** 業務運営に深刻な影響を与える問題には 24 時間年中無休の電話サポートが提供されます。深刻度の低い問題では、営業時間内の電話サポートと無制限のメール サポートをご利用いただけます。
- ▶ **エンタープライズ ソース コード ライセンス プログラム:** ソフトウェア アシュアランスによるライセンス付与対象のデスクトップ PC がシステム プール内で 10,000 台以上に達しているお客様に、社内での開発とサポートを目的とした Microsoft Windows のソース コードのアクセス権が提供されます。
- ▶ **障害復旧を目的とするバックアップ:** オフライン ("コールド") バックアップに使用するサーバー用の追加ライセンスが提供され、重大な障害発生時の復旧が可能になります。

障害復旧の権利

ライセンスが付与されたサーバーの物理 OSE または仮想 OSE で実行される、この権利の対象となるサーバー ソフトウェアの各インスタンス用に、物理 OSE または仮想 OSE を使用してバックアップ インスタンスを一時的に実行できます。物理 OSE または仮想 OSE の実行環境は、(a) お客様以外が使用しない障害復旧専用サーバー、または (b) Microsoft Azure サービス (Windows Server 以外の対象ソフトウェア インスタンスの場合) であるものとします。さらに (b) の場合は、バックアップ インスタンスを Azure Site Recovery で管理し、バックアップ先を Azure にすることが条件です。バックアップ インスタンスの使用には、当該ソフトウェアのライセンス条件および以下の制限が適用されます。

バックアップ インスタンスは、以下の例外期間に限り実行できます。

- ▶ 障害復旧テストを目的とした短い期間 (90 日間ごとに 1 週間以内)
- ▶ 障害発生時に、復旧対象の運用サーバーが停止している期間
- ▶ 障害発生時や障害発生の前後、プライマリの運用サーバーと障害復旧サーバー間の転送を実施するための短い期間

障害復旧の権利の下でソフトウェアを利用するには、次の条件を満たす必要があります。

- ▶ 障害復旧サーバーの OSE が、上記の状況以外で実行されないこと
- ▶ 障害復旧サーバーの OSE が、運用サーバーと同じクラスターに配置されないこと
- ▶ Microsoft Azure サービスで実行されるバックアップ インスタンス以外では、プライマリ サイトの運用サーバーから障害復旧サーバーへの仮想 OSE の複製に Windows Server の Hyper-V の役割を使用していれば、障害復旧サーバーに Windows Server のライセンスは不要
- ▶ 障害復旧サーバーを、Hyper-V などのハードウェア仮想化ソフトウェアを実行する、ハードウェア仮想化サービスを提供する、ハードウェア仮想化ソフトウェアの管理用エージェントを実行する、レプリケーションの際の複製先として機能する、複製された仮想 OSE を受け入れる、フェールオーバーのテストを実施する、仮想 OSE のフェールオーバーを待機する、のいずれかの目的にのみ使用する
- ▶ 前述の障害復旧時のワークロードを実行する
- ▶ 障害復旧サーバーを運用サーバーとして使用しない場合

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

- ▶ ソフトウェアのバックアップ インスタンスを使用する場合、当該ソフトウェアのライセンス条件に従う
- ▶ 障害復旧プロセスが完了し運用サーバーが復旧した後は、バックアップ インスタンスは、ここで実行が許可されている場合以外に実行できない
- ▶ バックアップ インスタンスへのアクセスおよびソフトウェアが実行される OSE の管理のために、すべての CAL、External Connector ライセンス、Server Management ライセンスに対応するソフトウェア アシュアランスを維持する
- ▶ バックアップ インスタンスを実行できる権利は、ソフトウェア アシュアランス契約の終了と共に終了する

ソフトウェア アシュアランス特典が実際に提供する権利の内容は、コマーシャル ライセンス プログラムの種類 (Enterprise Agreement や Open Value Agreement など)、製品、ソフトウェア アシュアランスで契約した対象ライセンスの数に応じて変化します。詳細については、www.microsoft.com/ja-jp/licensing/licensing-programs/software-assurance-default をご覧ください。

「新バージョンへのアップグレード権」特典に基づくバージョンの移行

Windows Server を対象とする有効なソフトウェア アシュアランスをお持ちのコマーシャル ライセンスのお客様は、「新バージョンへのアップグレード権」特典に従って、最新バージョンの一般提供が開始された時点で、製品を最新バージョンにアップグレードする権利が付与されます*。ソフトウェア アシュアランスの対象となる Windows Server ライセンス 1 件に対し、対応する Windows Server 2012 R2 エディションのライセンスが 1 件提供されます。

* コマーシャル ライセンス プログラムの規則が適用されます。詳細については、[製品条項](#)をご覧ください。

有効なソフトウェア アシュアランス
の対象ライセンス:

Windows Server Datacenter

Windows Server Standard

Windows Server Essentials



移行できるバージョン:

Windows Server Datacenter 2012 R2

Windows Server Standard 2012 R2

Windows Server Essentials 2012 R2

ソフトウェア アシュアランスに基づく移行パス

OEM ライセンスをソフトウェア アシュアランスの対象にする場合

ソフトウェア アシュアランスはソフトウェアの最新バージョン** である Windows Server 2012 R2 について利用できます。ソフトウェア アシュアランスは購入から 90 日以内に取得する必要があります (詳細については、[製品条項](#)をお読みください)。OEM ライセンスのソフトウェア アシュアランスを取得した場合は、当該ソフトウェアの利用は、当該ソフトウェアのマイクロソフト製品使用权と利用条件、または、所属組織のコマーシャル ライセンス契約によって規定されます。

* 「最新バージョン」は、ボリューム ライセンス サービス センターに公開されている最も新しいバージョンと定義されます。

コマーシャル ライセンス プログラムにおける提供状況

Windows Server 2012 R2 の各エディションのライセンスは、マイクロソフト コマーシャル ライセンスで以下のように入手することができます。

エディション	コマーシャル ライセンス プログラム				
	Enterprise Agreement (および Subscription)	Microsoft Products and Services Agreement (MPSA)*	Open Value (および Subscription)	Open License	教育 ソリューション 加入契約
Datacenter	●	●	●	●	●
Standard	●	●	●	●	●
Essentials			●	●	
Foundation	OEM 経由でのみ入手可能。コマーシャル ライセンス経由では入手不可				

*2016 年 7 月 1 日より、MPSA が提供されている地域における既存の Select Plus の一般企業のお客様は、次の契約応当日より Select Plus を通じてのソフトウェア アシュアランスの更新および新規発注を終了いたします。この提供終了について、公共機関および教育期間の Select Plus のお客様へは適用外です。詳細情報は、www.microsoft.com/ja-jp/Licensing/licensing-programs/select をご覧ください。

ボリューム ライセンス認証

Windows Server 2012 R2 では、組織におけるボリューム ソフトウェア ライセンスの配布と管理を効率的に構成するためのテクノロジーが豊富に用意されています。以下にこうしたテクノロジーのいくつかを紹介します。

- ▶ **サーバーの役割「ボリューム ライセンス認証サービス」** - ボリューム ライセンス認証サービスは、Windows Server 2012 以降のエディションで利用できるサーバーの役割です。このサービスを使って、さまざまなシナリオと環境におけるマイクロソフトのソフトウェア ボリューム ライセンスの発行と管理を自動化、効率化できます。ボリューム ライセンス認証サービスにより、キー管理サービス (KMS) をインストール/構成したり、Active Directory によるライセンス認証を利用できるようになります。
- ▶ **キー管理サービス (KMS)** - KMS は、KMS ホストがインストールされたサーバーから組織のネットワーク内でシステムをライセンス認証できるようにするための役割サービスです。KMS を利用することで、IT プロフェッショナルが製品のライセンスを認証する際にコンピューター 1 つひとつをマイクロソフトに接続しなくても、ローカル ネットワーク内でライセンス認証の作業を完結できるようになります。KMS には専用のシステムは必要なく、その他のサービスを提供するシステムと共存させてもかまいません。Windows 8 以降および Windows Server 2012 以降のボリューム ライセンス エディションは、KMS をホストするシステムに接続してライセンス認証を要求する動作を既定で実行します。ユーザーによる操作はまったく必要ありません。
- ▶ **Active Directory によるライセンス認証** - Active Directory によるライセンス認証は、Active Directory ドメイン サービス (AD DS) を使用してライセンス認証オブジェクトを格納できるようにするための役割サービスです。これにより、ネットワークのボリューム ライセンス認証サービスをさらに簡単に管理できるようになります。Active Directory によるライセンス認証には、追加のホスト サーバーは必要なく、ライセンス認証要求もコンピューターの起動時に処理されます。

汎用ボリューム ライセンス キー (GVLK) がインストールされた Windows 8 以降および Windows Server 2012 以降を実行する、ドメイン接続されたすべてのコンピューターは、ライセンス認証を自動かつ透過的に実行します。これらのコンピューターは、ドメインのメンバーである限りライセンス認証された状態が継続され、ドメイン コントローラーとも定期的に通信を実行します。ライセンス認証は、このライセンス サービスの開始後に実行されます。サービスが開始されると、Windows 8 以降および Windows Server 2012 以降を実行するコンピューターの RD が AD DS に自動で通信を開始し、ライセンス認証オブジェクトを受け取り、ライセンス認証を実行します。この間ユーザーの操作は必要ありません。

詳細については、[こちらの TechNet 記事](#)をご覧ください。

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

ライセンスについてよく寄せられる質問 (FAQ)

1. Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディションのライセンス入手方法を教えてください。

Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディションは、Windows Server 2012 の Standard エディションと Datacenter エディションのモデルを引き継いでいます。エディションの違いは仮想化の権利のみです (Standard の OSE は 2 つ、Datacenter の OSE は無制限)。1 つのライセンスは、最大 2 基の物理プロセッサをカバーします。

サーバーにアクセスするユーザーまたはデバイスごとにクライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。Windows Server 2012 に関連付けられた CAL で、Windows Server 2012 R2 の機能にアクセスできます。

2. Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディションの違いは何ですか。

Standard エディションと Datacenter エディションでは、提供される機能は同じですが、仮想オペレーティング システム環境 (VOSE) の数が異なります。Standard エディションのライセンスでは、最大 2 基のプロセッサ上で最大 2 つの VOSE を実行できます (コマーシャル ライセンスの場合、[製品条項](#)で規定されている VOSE 使用権の対象となります。その他のチャネルの場合は、[使用許諾契約書](#)の対象となります)。Datacenter エディションのライセンスでは、最大 2 基のプロセッサで VOSE を無制限に実行できます。

3. Windows Server 2012 R2 と System Center 2012 R2 のライセンス モデルの整合性は引き続き維持されるのですか。

はい。Windows Server 2012 R2 と System Center 2012 R2 のライセンス体系は共通しています。いずれも Standard と Datacenter の 2 つのエディションがあるほか、以下の点が共通しています。

- ▶ 1 つのライセンスで最大 2 基の物理プロセッサがカバーされる。
- ▶ エディションの違いは仮想化の権利のみ (Standard の OSE は 2 つ、Datacenter の OSE は無制限)。

(Windows Server 2012 R2 サーバーにアクセスするには、クライアント アクセス ライセンス (CAL) が必要です。System Center が管理するエンドポイントには管理アクセス ライセンスが必要です。)

4. Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションと Standard エディションでは、どのような機能を利用できますか。

Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションと Standard エディションにはさまざまな新機能が搭載されています。以下に機能の一部を紹介します。

- ▶ エンタープライズ クラスの仮想マシンの密度、パフォーマンス、モビリティ。マイクロソフト ワークロードに対するクラス最高のパフォーマンスと拡張性
- ▶ コスト効率に優れた業界標準ハードウェアに構築された、高パフォーマンスなファイル ベース記憶域 (記憶域の仮想化と階層化にも標準対応)
- ▶ マルチテナント環境、オンプレミスとクラウド、物理ネットワークと仮想ネットワークをつなぐ、可用性に優れた標準搭載のハイブリッド ネットワーク機能
- ▶ シンプルで低価格な障害復旧オプションによる、あらゆるワークロードにかかわる資産の保護と復旧
- ▶ 企業情報を保護しながら場所とデバイスの制限を受けない、企業リソースへの柔軟なリモート アクセス

5. 適切な Windows Server 2012 R2 エディションを決定する方法を教えてください。

Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディションの機能は同等で、仮想化の権利が唯一の違いなので、選択するエディションはお客様の仮想化戦略に応じて判断していただくことになります。高度に仮想化された環境が戦略上必要な場合は、仮想化に関する制限のない柔軟な Datacenter エディションが最適です。このエ

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

ディションでは、対象となるサーバー上の仮想 OSE の数を追跡する必要がなく、Datacenter がライセンスされている複数のサーバー間で仮想 OSE を自由に追加、移動できます。高度な仮想化環境が計画に含まれていない場合は、Standard エディションがお勧めです。Standard エディションを購入した後に、ライセンス対象のサーバーでより充実した仮想化機能が必要になった場合は、次のいずれかのオプションを使用できます。

1. 追加の Standard エディション ライセンスを購入して同じ物理サーバーに割り当てることにより、Windows Server の追加インスタンスを実行できるようになります。このサーバーには、実行されるすべての仮想 OSE の最大数をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。
2. Datacenter エディションへのソフトウェア アシュアランス ステップアップ ライセンスを購入し、ライセンスを上位のエディションに変更することによって仮想 OSE を無制限に実行できるようになります。この特典を活用するには、元のライセンスでソフトウェア アシュアランスを利用している必要があります。

6. Windows Server 2012 R2 の Standard エディションのライセンスを持っている場合、仮想化の権利をどのような方法で増やすことができますか。

Windows Server 2012 R2 の Standard エディションのライセンス モデルでは、Datacenter エディションへのステップアップ ライセンスを購入するか（ソフトウェア アシュアランスがある場合）、追加の Standard エディションを購入して同じ物理サーバーに割り当てることによって仮想環境を拡大できます。このサーバーには、実行されるすべての仮想 OSE の最大数をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。たとえば、2 プロセッサ サーバー 1 台で合計 4 つの VOSE を実行する場合、Standard エディションのライセンスを 2 つ購入して同じサーバーに割り当てることができます。その他の例については、以下の表を参照してください。

サーバー 1 台に割り当てる Standard エディション ライセンスの数	VOSE の合計数
1	2
2	4
3	6
4	8

7. サーバーに必要なライセンス数の計算方法を教えてください。

必要なライセンスの数は、サーバーに搭載されている物理プロセッサの数と、実行するサーバー インスタンスの数によって決定されます（Datacenter エディションでは VOSE を無制限に実行できるため、この原則は Standard エディションにのみ適用されます）。これらの 2 つの数の大きい方によって、必要なライセンスの合計数が決定されます。

まず、物理プロセッサのライセンス数を特定します。

各ライセンスは最大 2 基の物理プロセッサをカバーするので、1 台の物理サーバー全体にライセンスを適用するために必要なライセンスの数を判断するには、サーバーに搭載されている物理プロセッサの数を 2 で割ります（注：物理プロセッサのコア数は関係ありません）。

いくつか例を紹介します。

2 プロセッサ サーバー 1 台の場合: $2 \text{ 基の物理プロセッサ} \div 2 \text{ (1 つのライセンスでカバーされるプロセッサの数)} = 1$ 。2 プロセッサ サーバー 1 台に必要なライセンスは 1 つです。

4 プロセッサ サーバー 1 台の場合: $4 \text{ 基の物理プロセッサ} \div 2 \text{ (1 つのライセンスでカバーされるプロセッサの数)} = 2$ 。4 プロセッサ サーバー 1 台に必要なライセンスは 2 つです。

8 プロセッサ サーバー 1 台の場合: $8 \text{ 基の物理プロセッサ} \div 2 \text{ (1 つのライセンスでカバーされるプロセッサの数)} = 4$ 。8 プロセッサ サーバー 1 台に必要なライセンスは 4 つです。

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

次に、実行する仮想インスタンスの数を特定します。

Standard エディションのライセンス数は、実行する VOSE の数をカウントすることによって特定できます (1 つのライセンスで最大 2 つの VOSE がカバーされます)。一方、Datacenter エディションのライセンスを購入する場合は、サーバー上で VOSE を無制限に実行できます。

1 つの Standard エディション ライセンスに最大 2 つの VOSE を実行する権利が付与されるので、必要な Windows Server の Standard エディションのライセンス数を特定するには、サーバーで実行する VOSE の合計数をカウントし、その数を 2 で割り、小数点を切り上げます。この整数が必要なライセンス数となります。

物理プロセッサと VOSE に基づいて特定された必要ライセンス数のうち、大きい数が必要なライセンスの合計数です。このサーバーには、実行されるすべての仮想 OSE の最大数をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。

たとえば、1 台の 2 プロセッサ サーバーで 3 つの仮想マシン (VOSE) を実行する場合、3 つの仮想マシンをカバーするために 2 つのライセンスが必要です。

1 台のサーバーに 2 つの Standard エディション ライセンスを割り当てると、そのサーバーでは合計 4 つの VOSE を実行できます。同じサーバーに Standard エディション ライセンスを 1 つ追加すると、そのサーバーで実行できる VOSE の数は 2 つ増え、合計 6 つの VOSE を実行できるようになります。

8. 1 つの Standard ライセンスで 1 台のシングル プロセッサ サーバーをカバーできますか。

はい。1 つの Standard エディション ライセンスで、サーバー 1 台の最大 2 基の物理プロセッサをカバーできます。ただし、そのサーバーに必ずしも 2 基の物理プロセッサが搭載されている必要はありません。

9. Windows Server 2012 R2 のライセンスを複数のサーバーに分割できますか。

いいえ。各ライセンスは 1 台の物理サーバーにしか割り当てることができません。

10. Windows Server 2012 R2 のライセンスを仮想マシンに割り当てることができますか。

いいえ。ライセンスは物理サーバーに割り当てられます。各ライセンスは最大 2 基の物理プロセッサをカバーします。ライセンスを物理サーバーに割り当てた後、そのサーバーで VOSE を使用することができます。

11. 同一のサーバー上で Datacenter と Standard のライセンスを同時に使用できますか。

いいえ。サーバーに搭載されているすべてのプロセッサに、同じバージョンとエディションのライセンスを割り当てる必要があります。VOSE 内でゲストとして異なるエディションまたは古いバージョンの Windows Server ソフトウェアを実行できますが、バージョンやエディションが異なる複数のライセンスを同一の物理サーバーに割り当てても、そのサーバーに搭載されているプロセッサにライセンスを適用することはできません。

12. 以前のバージョンまたはエディションの Windows Server のソフトウェアを使用できるようにするには、どのような選択肢がありますか。

Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションには、ソフトウェア ビットを以前のバージョンまたは下位エディションにダウングレードする権利が付属しています。Windows Server 2012 R2 の Standard エディションには、ソフトウェアをダウングレードして以前のバージョンの Enterprise、Standard、Essentials のいずれかのエディションを使用する権利が付属しています。

ダウングレード権は、製品を使用する際のライセンスやサポートの条項を変更するものではありません。購入した製品 (Windows Server 2012 R2) の権利が常に適用されます。つまり、このライセンスで引き続き最大 2 基の物理プロセッサがカバーされ、仮想化の権利も変更されません。また、例外として、購入したバージョンに対応するクライアント アクセス ライセンス (CAL) が適用されます。ダウングレード対象の以前のバージョンを実行する場合も、対応する CAL バージョンを使用できます (存在する場合)。以下にいくつかの例を紹介します。

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

購入したライセンス	ダウングレード後のバージョンまたはエディション	適用されるビットの権利	適用されるライセンスの権利
Datacenter 2012 R2	Datacenter 2008	Datacenter 2008	Datacenter 2012 R2 ¹
Standard 2012 R2	Enterprise 2008 R2	Enterprise 2008 R2	Standard 2012 R2 ^{1、2}
Standard 2012 R2	Standard 2008	Standard 200	Standard 2012 R2 ^{1、2}
Standard 2012 R2	Essentials 2012	Essentials 2012	Standard 2012 R2 ^{1、2}

¹ ライセンス 1 つで最大 2 基のプロセッサをカバーします。

² ライセンス 1 つで最大 2 つの仮想マシンを実行できます。

13. Windows Server 2012 R2 の一般提供開始時にソフトウェア アシュアランスがある場合、この権利はライセンス レコードに反映されますか。

はい。Windows Server 2012 R2 が使用できるようになるとすぐに、ボリューム ライセンス サービス センター (VLSC) に権利が反映され、資格を持つ Windows Server 2012 R2 のエディションの永続的な権利が (元になるライセンスに基づいて) 直ちに付与されます。

14. Windows Server 2012 R2 のリリース時に Windows Server 2012 の Datacenter エディションとソフトウェア アシュアランスを持っている場合、どのエディションを取得できますか。

Datacenter エディションのソフトウェア アシュアランスがある場合、Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションを取得できます。ソフトウェア アシュアランスのある Windows Server 2012 の Datacenter ライセンス 1 つに対して、Windows Server 2012 R2 の Datacenter エディションのライセンスが 1 つ提供されます。

15. Windows Server 2012 R2 のリリース時に Windows Server 2012 の Standard エディションとソフトウェア アシュアランスを持っている場合、どのエディションを取得できますか。

Standard エディションのソフトウェア アシュアランスがある場合、Windows Server 2012 R2 の Standard エディションを取得できます。ソフトウェア アシュアランスのある Windows Server 2012 の Standard ライセンス 1 つに対して、Windows Server 2012 R2 の Standard エディションのライセンスが 1 つ提供されます。

16. マイクロソフトの購入プログラムによるソフトウェア アシュアランス移行の権利はどのようなものですか。

契約終了時におけるソフトウェア アシュアランス移行の権利は、マイクロソフト購入プログラムごとに規則が異なります。次の表を参照してください。

プログラム	リリース時におけるソフトウェア アシュアランス
Enterprise Agreement	最新エディション (Windows Server 2012 R2) の永続的権利が提供されます。これらの権利は、お客様およびお客様の関連会社が同じ契約条項 (製品への支払いを含む) に引き続き準拠することが条件となります。
Enterprise Agreement Subscription	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時は、お客様の価格シートに記載されている買取価格またはリセラーのチャネル価格シートに基づいた買取価格で新しい Windows Server 2012 R2 製品を購入するか、新しい Windows Server 2012 R2 の年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

Enrollment for Education Solutions	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時は、新しい Windows Server 2012 R2 製品を買取価格で買い取ることができます (この場合、Windows Server のライセンスの根拠となる 36 か月以上の契約 (更新を含む) が契約満了直前に 1 つ以上存在していることが条件です)。または、新しい Windows Server 2012 R2 の年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。
マイクロソフト 製品/サービス契約	最新エディション (Windows Server 2012 R2) の永続的権利が提供されます。これらの権利は、お客様およびお客様の関連会社と同じ契約条項 (製品への支払いを含む) に引き続き準拠することが条件となります。
Open Value	最新エディション (Windows Server 2012 R2) の権利が提供されます。これらの権利は、お客様およびお客様の関連会社と同じ契約条項 (製品への支払いを含む) に引き続き準拠することが条件となります。
Open Value Subscription	契約期間中、ライセンス対象の Windows Server 2012 R2 エディションを使用できます。契約終了時は、新しい Windows Server 2012 R2 製品を買取価格で買い取ることができます。または、新しい Windows Server 2012 R2 の年間サブスクリプション価格で契約を更新することができます。詳しくは契約条項をご確認ください。
Select Plus* および Open License	最新エディション (Windows Server 2012 R2) の権利が提供されます。これらの権利は、お客様およびお客様の関連会社と同じ契約条項 (製品への支払いを含む) に引き続き準拠することが条件となります。

*2016 年 7 月 1 日より、MPSA が提供されている地域において既存の select Plus の一般企業のお客様は、次の契約応当日より Select Plus を通じての新規発注およびソフトウェアアシュアランスの更新を終了いたします。この提供終了に関しては、公共機関および教育期間の Select Plus のお客様へは適用外です。詳細情報は、www.microsoft.com/ja-jp/Licensing/licensing-programs/select をご覧ください。

17. Windows Server 2012 R2 の Standard エディションと Datacenter エディションの価格を教えてください。

価格レベルはさまざまに異なります。具体的な価格についてはマイクロソフト リセラーにお問い合わせください。リセラー経由で購入する場合、マイクロソフトはライセンスの価格や支払い条件を決定できません。

Windows Server の エディション	コマーシャル ライセンス Open No Level の推定小売価格
Datacenter	\$6,155
Standard	\$882

18. Windows Server 2012 R2 Datacenter の価格が変更されているのはなぜですか。

マイクロソフトは価格とライセンスに関する決定を慎重に行っています。すべての価格設定は、製品価値、お客様とパートナー様のフィードバック、市場状況の変化を考慮した結果です。Windows Server の Datacenter エディションは高度に仮想化された環境に最適化されており、ライセンスには無制限の仮想化の権利が含まれています。このため、サーバー上の仮想 OSE の数を追跡する必要がなく、ライセンスされた複数のサーバー間で仮想 OSE を自由に追加、移動できます。

Windows Server は、これまでの数回のリリースを通して、高度に仮想化されたデータセンターとクラウド環境のサポートを目的に、かなりの数に上る新機能と機能強化、パフォーマンスの向上、処理能力の増強を実現してきました。こうした取り組みの一部を以下に紹介します。

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

以下のサポートを含む、パフォーマンスの拡張性強化

- ▶ ハードウェア上の 320 基の論理プロセッサ
- ▶ 4 TB の物理メモリ
- ▶ 仮想マシンあたり 64 基の仮想プロセッサ
- ▶ 仮想マシンあたり 1 TB のメモリ
- ▶ ホストあたり 1,024 個のアクティブな仮想マシン
- ▶ バージョンをまたがるライブ マイグレーション、ライブ マイグレーション圧縮、RDMA を使用したライブ マイグレーションなど、ライブ マイグレーション機能の強化
- ▶ VHDX の拡大/縮小をダウンタイムなしで処理する機能
- ▶ ターシャリ (第 3) サイトのサポートやわずか 30 秒の同期間隔など、Hyper-V レプリカの機能強化

その他多数

高度な仮想化が必要でないサーバーでは Windows Server Standard が最適です。このエディションでは、1 ライセンスで 2 つのインスタンスを実行でき、必要に応じて 1 台のサーバーに複数のライセンスを割り当てて、サーバー上の実行可能な OSE の密度を増やすこともできます。Windows Server Standard のライセンスが適用されたサーバーには、実行されるすべての仮想 OSE の最大数をカバーする適切な数のライセンスを割り当てる必要があります。

19. Windows Server 2012 R2 にアクセスするために必要なクライアント アクセス ライセンス (CAL) は何ですか。

Windows Server 2012 および Windows Server 2012 R2 へのアクセスには、Windows Server 2012 クライアント アクセス ライセンス (CAL) を使用します。Windows Server 2012 CAL のソフトウェア アシュアランスがなくても、Windows Server 2012 R2 にアクセスできます。

20. リモート デスクトップ サービス (RDS) と Active Directory Rights Management サービス (AD RMS) にアクセスするには、引き続き CAL が別途必要ですか。

はい。リモート デスクトップ サービス (RDS) と Active Directory Rights Management サービス (AD RMS) のライセンスに関する要件は、Windows Server 2012 R2 でも変わりません。これまで同様、AD RMS の機能にアクセスするには AD RMS CAL を、RDS の機能にアクセスするには RDS CAL を、それぞれ Windows Server CAL とは別にご購入いただく必要があります。たとえば、Windows Server 2012 R2 で RDS の機能にアクセスするには、サーバーソフトウェアに加えて、Windows Server 2012 CAL と Windows Server 2012 RDS CAL が必要です。

21. “プレビュー” と “一般提供” の Windows Server 2012 R2 を Microsoft Azure で実行する場合の価格を教えてください。

プレビューの場合、Windows Server 2012 R2 を実行する VOSE は、Linux を実行する VOSE と同じ料率で課金されます。一般提供時には、Windows Server 2012 R2 を実行する VOSE は、Windows Server 2012 を実行する VOSE と同じ料率で課金されます。

22. Windows Server 2012 R2 のライセンスとイメージは、Hyper-V と Azure の間で移動できますか。

Windows Server 2012 と同様に、Windows Server 2012 R2 のライセンスは、ソフトウェア アシュアランス特典によるライセンス モビリティの対象とはなっていません。他のサーバー アプリケーションについてはこれまでどおりライセンス モビリティの権利を利用できますが、Windows Server についてはサービス プロバイダーまたは Azure から別途購入する必要があります。

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

23. Azure 上で実行する Windows Server 2012 R2 インスタンスの管理に必要な System Center ライセンスは何ですか。

ソフトウェア アシュアランスのライセンス モビリティを使用して、Azure で実行する Windows Server インスタンスに System Center 2012 R2 ライセンスを割り当てることができます。

24. コア インフラストラクチャ スイートの Windows Server 2012 R2 の一部のインスタンスを Azure で実行するには、どのようにライセンスを割り当てたらよいですか。

Windows Server は、スタンドアロン ライセンスとしても、購入したコア インフラストラクチャ スイート製品内のコンポーネントとしても、モビリティの権利を提供しないため、コア インフラストラクチャ スイート (CIS) の Windows Server のライセンスを Azure で実行することはできません。

25. Windows Server 2012 R2 Essentials のライセンス モデルに変更はありますか。

これまでと同様、Windows Server 2012 R2 Essentials では、最大 2 基の物理プロセッサを搭載した 1 台のサーバーをカバーするライセンスが提供されます。CAL は必要ではありませんが、ユーザー アカウント数は 25 までに制限されます。

以前のバージョンである Windows Server の Essentials エディションでは、Windows Server を仮想マシンとして実行するにはハイパーバイザーを別途取得する必要がありました。選択肢としては、無料の Microsoft Hyper-V Server を使用するか、Windows Server の Standard エディションを使用して Hyper-V を実行するなどの方法がありました。Windows Server 2012 R2 の Essentials エディションでは、製品のライセンス条項が拡張され、物理サーバー上で 1 つのオペレーティング システム インスタンスを Hyper-V 用に実行し、同じサーバーで 2 つ目のオペレーティング システム環境を実行して、この環境で Essentials を仮想マシンとして実行できます。また、新たに導入されたインストール ウィザードを使用してホスト サーバー環境の設定と構成手順を自動化することで、仮想マシンとしての展開プロセスを簡略化することができます。そのため、Hyper-V およびその機能 (ライブ マイグレーションや Hyper-V レプリカなど) を、これまでよりも簡単に活用できるようになります。

26. Windows Server 2012 R2 Essentials にはどのような新機能がありますか。

Windows Server 2012 R2 Essentials に組み込まれた優れた機能セットにより、以下のことを可能にする、大部分の小規模ビジネスに適したサーバー環境を構築することができます。

- ▶ データの保護
- ▶ セキュリティ保護されたリモート アクセスの提供
- ▶ クラウド サービスの統合

お客様は、重要な基幹業務アプリケーションやその他の社内ワークロードを実行する基盤として Windows Server 2012 R2 Essentials を活用できます。また、実行されるクラウド ベースのアプリケーションとサービス (電子メール、コラボレーション、オンライン バックアップなど) の管理エクスペリエンスを統合できます。

27. Windows Server 2012 R2 Essentials では、その他にどのようなエディションを利用できますか。

利用できるのは Windows Server 2012 R2 Essentials エディション 1 種類だけです。Windows Server 2012 R2 Essentials は、社内ワークロードまたはクラウド ベースのワークロードの実行基盤となる、柔軟性に優れた製品です。

Windows Server 2012 R2 コマーシャル ライセンス リファレンス ガイド

28. Windows Server Essentials の価格を教えてください。

具体的な価格についてはマイクロソフト リセラーにお問い合わせください。実際の価格はさまざまに異なります。リセラー経由で購入する場合、マイクロソフトはライセンスの価格や支払い条件を決定できません。

エディション	コマーシャル ライセンス Open No Level の推定小売価格
Essentials	\$501
Foundation	OEM のみ

29. Windows Server 2012 の一部としての Foundation エディションに、ライセンス面の変更はありますか。

Foundation エディションのライセンスまたは価格モデルに変更はありません。

詳細情報

- ▶ Windows Server 2012 R2 のライセンス: www.microsoft.com/ja-jp/Licensing/product-licensing/windows-server-2012-r2.
- ▶ マイクロソフト コマーシャル ライセンス: www.microsoft.com/ja-jp/licensing
- ▶ ボリューム ライセンス サービス センター (VLSC): www.microsoft.com/licensing/servicecenter/
- ▶ Microsoft License Advisor: mla.microsoft.com/default.aspx?language=Japanese&country=JP
- ▶ ボリューム ライセンス認証: www.microsoft.com/ja-jp/Licensing/existing-customer/product-activation

© 2017 Microsoft Corporation. All rights reserved.

このドキュメントに記載された内容は情報の提供のみを目的としています。明示または黙示にかかわらず、この内容に関してマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。この情報はライセンスを受けた製品を正しくご使用いただくためのガイドであり、お客様との契約ではありません。ボリューム ライセンス契約に基づきライセンスを受けた製品の使用については、当該契約に定める契約条件に規定されます。この情報と契約の間に齟齬がある場合は、契約の条項が優先されます。マイクロソフトの代理店を通じて取得するライセンスの価格は、代理店によって決定されます。